

令和6年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡工業高等学校(全日制)

教育目標	1 豊かな教養と工業に関する知識と技術を修め、創造性に富んだ人間の育成。 2 自ら深く考え正しく判断する力と他を思いやる心をもった感性豊かな人間の育成。 3 健全な身体とねばり強い実践力を培い、心身共にたくましい人間の育成。	重点目標	1 未来社会を生き抜く確かな学力の定着と能力の育成 2 豊かな心と健やかな体を育成する生徒指導の充実 3 社会の変化に対応し、自己実現を達成できるキャリア教育の充実 4 活動を支える環境整備 5 愛され期待に応える魅力ある学校づくり
------	--	------	--

達成度	A : 達成	B : 概ね達成	C : やや不十分	D : 不十分
-----	--------	----------	-----------	---------

評価項目		自己評価(年間)			学校関係者評価		総括
		具体的方策と指導・基準等	目標達成状況及び取り組み状況	達成度	次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等	
1	未来社会を生き抜く確かな学力の定着と能力の育成	(1)「主体的に対話的な深い学び」を育む授業改善と指導体制の確立 (2)基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける教育活動の充実 (3)主体性や創造力、探究力、論理的思考力、デジタル技術活用力を身に付ける実践的指導の研究	(1)出席率99%以上の目標を達成できなかった。感染症拡大防止のために体調不良の場合には無理をしない指導を引き続き行っているためである。 (2)家庭学習への取り組みに対する生徒の自己評価は低い。 (3)授業満足度の目標80%を概ね達成できた。 (4)欠点保有者を0人とすることはできなかった。 (5)年間図書貸出読書数3.0冊/人(昨年2.4冊) (6)データサイエンス教育について職員研修を実施し、総探指導の充実を図った。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別最適な学習指導のさらなる充実を図るために、専門科・教科の連携を進める。</li> <li>観点別評価により学力実態を評価し、フィードバックすることで、学習への取り組み姿勢の改善につなげる。</li> <li>優れた授業実践事例に関する研修を行い、組織的な授業改善についての取り組みをさらに充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アントレプレナーシップ教育のもと、課題発見や情報収集、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上、育成がなされている。</li> <li>課題研究発表会は年々レベルが向上しており、とても素晴らしかった。</li> <li>資格取得の合格率が下がっていることや受験者数も低下していることが気になります。AIやDXも重要ですが、「ものづくり」に関することにも力を入れていただければと思います。 評価A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修を通して教員の指導力向上を図り、学習活動、部活動など様々な場面で主体的に考え行動できる生徒を育成します。</li> <li>地域拠点校としての特色と魅力をさらに発信できるように努力していきます。</li> <li>地域に根ざした元気な学校、郷土に誇りを持ち地域とつながる生徒の育成を心掛けて実践します。</li> </ul>
2	豊かな心と健やかな体を育成する生徒指導の充実	(1)生命と自他の尊厳に目を向ける教育の推進と円滑な人間関係を育む学校生活の確立 (2)社会人としての規範意識・マナーの確立と交通安全・情報モラル教育の推進 (3)部活動やものづくり活動をとおした高い人間力の涵養 (4)心身の健康と安心な生活を支える支援・指導の充実	(1)いじめアンケートの実施と対策委員会を実施した。 (2)自転車事故が3件と昨年度より減少した。 (3)部活動加入率は80.31%で目標の90%以上を達成することができなかった。 (4)外部講師を活用した講話を実施した。ネットトラブル防止講話については、使用ルールの徹底と情報モラルの啓発に向けた注意喚起を行った。 (5)生徒支援委員会が中心となり学年団部や当該学科等との情報交換やSC・SSWの活用などにより生徒支援を行った。 (6)PTA総会への出席率は23.2%で目標の40%以上に届かなかった。 (7)学年PTAは役員会も含め3～5回、学級PTAは1～2回実施されている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめは絶対許さない校風づくりと完全防止を徹底する。また、いじめアンケート調査後の対応のみならず、日常的な早期発見・早期解決に組織的に取り組む。</li> <li>SNS活用や情報モラルについては、外部講師による講話とともに、授業やHR活動における継続的な啓発に取り組む。</li> <li>支援を必要とする生徒については、支援委員会を中心にSC・SSWと連携して組織的対応をさらに充実させる。特に具体的な支援についての情報共有・目線合わせを徹底する。</li> <li>PTA活動を通し、家庭と学校の信頼関係のさらなる構築を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援が必要な生徒に対し、SCやSSWを配置、連携を取りながら支援体制が構築されている。</li> <li>時代の変化とともに、SNSなどの問題も含め、内容が複雑化していると思うが、家庭や外部機関とも連携を取りながら、指導をお願いしたい。</li> <li>生徒アンケートと保護者アンケートの中に先生の言動についての意見が二極化しているように感じました。改めるところは改めてほしいと思います。</li> <li>ハラスメント防止に対する意識のさらなる向上。 評価B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かな学力に基づいたキャリア教育の視点で探究心や向上心を持った生徒を育成します。</li> <li>多様な生徒に対応した特別支援教育に取り組みます。</li> <li>家庭学習の習慣化をめざし継続して指導します。</li> <li>いじめの根絶や交通安全意識の向上に今後も取り組みます。</li> </ul>
3	社会の変化に対応し、自己実現を達成できるキャリア教育の充実	(1)将来の在り方・生き方を考え、目的意識を持って進路実現に向かうキャリア教育の充実 (2)大学や地域人、起業家精神教育や地域課題等の教育資産を活かした実践的・体験的な教育活動の推進 (3)社会に求められるコミュニケーション力や自己表現力等を育てる教育活動の充実 (4)生徒・家庭、進路先と学校が緊密に連携した進路指導の充実 (5)国公立大を含めた高い目標を達成する進学指導体制の確立	(1)就職希望99名中県内57名、県外35名、公務員7名が内定した。進学希望59名中、大学32名、短大等11名、専門15名、留学1名である。 (2)地元就職率は60%の目標を達成した。 (3)全職員による進路指導体制が構築されている。特に進学では個を軸とした指導が好転している。 (4)3年間を見通した進路ガイダンスにより充実した進路指導を実施した。 (5)電気工事士20名、ITパスポート7名、2級土木施工4名、2級建築施工10名合格。 (6)今年度は山形大学データサイエンス教育研究推進センターとの連携事業も加わり生徒の探究力・表現力の向上を図ることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の強みを活かした総合型・学校推薦型選抜の受験指導の研究を進める。</li> <li>職業体験や大学等の公開講座への参加、総合的な探究の時間などの機会を通して、生徒の視野を広げながら進路指導を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種コンテスト上位入賞や地域イベント(大産業まつり、鶴工ものづくり展)へ参加し、日頃の学習、研究成果を発表することにより生徒自身の自信とこれからの目標へつながると思います。</li> <li>企業でのインターンシップをもっと多くの企業で生徒が行きたいところを選べたり、複数社見て自分で選択できるような仕組みができるともっとよくなると思います。</li> <li>1年生から進学ガイダンスを増やしてほしいという生徒のアンケートがあった。入学後、進学への変更もあり、ガイダンスを多く行って欲しい。 評価A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気で豊かな心と健やかな体を育み、工業教育の充実と学校活力の創出に取り組めます。</li> <li>各種大会で全国上位入賞できる生徒を育成します。</li> </ul>
4	活動を支える環境整備	(1)安全教育と防災教育・防災対策による、生徒の校内外での安全な活動の確保 (2)施設・設備の安全維持と清潔で快適な学校生活環境の整備	(1)火災・地震・Jアラート想定した訓練を行い、安全避難方法の徹底を図った。 (2)緊急配信メール「さくら連絡網」を活用し、情報配信と安否確認を迅速に行っている。家庭への連絡手段として有効活用している。また、豪雨災害発生時に実際に安否確認メールを職員・各家庭に配信した。 (3)全職員による安全点検を毎月実施し、衛生的で安全な学習環境整備を行うことができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災意識のさらなる高揚を図るために、実効性のある訓練内容の充実をはかる。</li> <li>安否確認メールの返信率を向上させる手立てを検討する。</li> <li>校舎設備の保全と危険個所の改善をはかり、衛生的で安全な学習環境の整備を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレ、弓道場等、毎回アンケートにも書かれているが、適正な整備が急務である。新体育館への渡り廊下が簡易的にでもできないだろうか。新校舎の建設まで不便である。</li> <li>雨漏りは早急に修繕してほしいです。良い環境が良い学びには必要です。</li> <li>防災訓練や不審者対策など定期的に訓練、環境確認がなされている。 評価B</li> </ul>	
5	愛され期待に応える魅力ある学校づくり	(1)国際的視野を持ちながら地域を考え未来を創造する人材の育成 (2)全国で活躍する部活動やものづくり活動の育成と支援 (3)ホームページやYouTube、インスタを活用した積極的な情報発信	(1)山形大学工学部との高大連携により、生徒に研究体験を積ませることができた。 (2)全国高校総体・国民体育大会・管楽合奏コンテスト全国大会出場、全国高総文祭への出場権獲得、やまがた高校生ロボットコンテスト優勝等成果を残した。 (3)地域に工業技術を生かす研究活動を積極的に行った。鶴工研究発表会を1月に荘銀タクトで開催した。ものづくり展示会は11月にイオンモール三川で実施し大好評であった。 (4)HPについては、昨年と比較し更新頻度が約2倍高くなった。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>高大連携や企業、鶴岡商工会議所との連携をさらに強化し、地域の教育資産を活用した活動を継続実践する。</li> <li>運動部、文化部、ものづくり活動の一層の活発化をはかり、学校活力を創出していく。</li> <li>HPやSNS等を利用して、本校の魅力をさらに発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ものづくり」の成果などを鶴工ものづくり展やホームページなどを通じて、情報発信、PRを推進し、学校PRと次世代の地域産業を支える人材の育成をお願いしたい。</li> <li>入学者を増やすためにも、プロジェクト内容やロボットコンクールの実績をもっと多くの人に知ってもらうことが必要だと思います。</li> <li>鶴工の魅力とは何か、入学者減少の中、中学校へのPRがもっと必要である。県内では工業系の合併も目につく状況である。</li> <li>高校、大学、地元企業と連携し、「ものづくり」を通じて、地域支援の幅を広げていって欲しい。</li> <li>ホームページを定期的に更新してほしい。</li> </ul>	

自己評価及び学校関係者評価の改善点等	具体的方策や達成目標を適切に設定するとともに、定期的に自己評価を行う機会を設けることで適正な自己評価を実践する。 適正な学校関係者評価を行っていただくために、普段の授業や学校行事等、実際の教育活動の現場を拝見いただく機会の充実を図る。
--------------------	--